

## 【在学生の活動】

公衆衛生プログラムが第1回オープンセミナーを開催 2016年3月25日



慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科公衆衛生プログラムは、3月25日、医学部信濃町キャンパスにて公衆衛生プログラム1期生有志の企画・運営にてオープンセミナーを開催しました。

ゼミの枠を超えて、視野を広く深い思考力で研究に取り組むための学びの場として、様々な方々から刺激を受けたいという想いで、オープンセミナーという形式をとり学内外から大勢の方にご参加いただきました。

### 「ゲストスピーカーは杉下智彦さん」



記念すべき第1回のゲストスピーカーは、JICA国際協力専門員であり医師の杉下智彦さんをお迎えしました。杉下さんは、長年のフィールドであるアフリカ諸国を中心に途上国での保健システム向上に尽力された功績が称えられ、2016年医療功労賞海外部門を受賞されました。

Kevin Carter「ハゲワシと少女」この1枚の写真を見てアフリカの人々のために働くことを決意した杉下智彦さん

また、JICAの活動に留まらずに、社会起業家としても精力的に活動され、女性が安心してお産できるクリニック「SU\*TE\*KI」の開設を構想しており、2015年社会起業大学ソーシャルビジネスグラプリを受賞された経歴をお持ちのとにかくパワフルな方です。

一方、私生活では1才と3才のお子さんの優しいパパであり、また国際協力に関心のある学生・社会人、誰にでも親切なアドバイスと励ましを送る、とにかく人に優しい杉下さんです。「目下の悩みは、一日が24時間しかないこと。36時間あればいいのになぁ～」と話されています。

### 「アフリカンリズムを体感する」

公衆衛生プログラム武林亨教授から開催挨拶の後、皆でアフリカンリズムにのせてからだを動かし、いよいよ杉下さんのレクチャーがスタートしました。



まずはアフリカの人びとのお手本を見ます



全員立ち上がりアフリカンリズムを体感しました

実はアフリカの人びとから日本人が学ぶことは多いと杉下さんは話します。日本人は自分たちでストレスまみれのライフスタイルを選んでしまっていますが、アフリカの人びとは軽やかにリズムを感じながら住人同士が毎日楽しく生活しています。

### 「社会と聞いてイメージする絵を描いてください」

この会場の中で誰一人として同じ絵を描いた人はいませんでした。物事の見方、考え方は人それぞれ違うということを理解しているようで、実はそうではありません。皆が同じ「社会」をイメージしていると思っていませんか？



参加者皆さん、真剣にイメージする「社会」を考えています



4月から公衆衛生プログラムに入学予定の新入生の方も発表してくれました

### 「今、こういう時代だからこそ対話を」



社会というイメージすら他人と自分とが異なるわけですから、他人と共存して社会を作るためには議論 (discussion) ではなく対話 (dialogue) が大切だと話されていました。特に現代の ICT 技術の進歩で対話をしないコミュニケーションが増えてしまい、それによって良い人間関係を作るのが難しくなってしまう、む

しろトラブルが増えてしまいました。杉下さんのように文化も母国語も異なる人々と仕事をする場合には、とくに対話を重視して信頼関係を築いているそうです。

「ガチガチに凝り固まった思考は、まず学び捨てることから」

私たちは多くを学びすぎて、柔軟に物事を考えられなくなってしまっています。

社会起業プロジェクト「SU\*TE\*KI」で常に新しいことに精力的に取り組まれる杉下さんであっても、自身の凝り固まった思考が悩みとのこと。これから社会に求められるのは創造力を持つ人であり、柔軟で創造力豊かな思考を育てるには今までの知識や経験を学び捨てること (unlearning) が必要だと強調されていました。そこでもやはり大切なことは、人との対話だと杉下さんは何度もおっしゃっていました。



セミナー後の懇親会にて

セミナー終了後はパーティーを開き、更に皆さんと親交を深めることができました。超多忙にも関わらず喜んで講演を引き受けてくださった杉下さん、そしてセミナーにお越しくくださった皆さま、本当にありがとうございました。このような学びの場にすすんで足を運んでくださるような方こそ、柔軟に新しいことを取り入れて、それぞれのお立場でこれからの社会をリードされていく方なのかと勝手ながら想像しました。そのような方々と有意義な時間を

共有させていただき、たいへん有難く、勉強になりました。重ねてお礼申し上げます。

文責 阪本幸子 (公衆衛生プログラム1期生)